

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク「第9回全国の集い 岐阜 2003」

演 題 : 長崎在宅Dr. ネットの紹介

副 題 : 診診連携の実践

都道府県名 : 長崎県

施設名 : 医療法人 白髭内科医院

発表者氏名 : 白髭豊

職 種 : 医師

共同発表者 : 藤井卓

(背景)

開業医にとって、がん末期等の重症患者を数多くひとりで診るのは心身共に大きな負担である。このため、がん末期等で在宅医療を希望する患者さんやその家族は少なからずいるものと思われるが、実際に訪問診療を受け入れ実施する医療機関は少ないとおもわれる。医療保険の改定により病院での長期入院が困難になってきた事や、介護保険の普及等により在宅医療のニーズは、今後ますます増大していくものと思われる。そこで、在宅医療を希望する患者さんをより多く受け入れる為の方法として、在宅医療に熱心な医師が集まり診診連携、病診連携を通じてグループ診療を行うことにより、病院・患者さんに対しては在宅医療の受け皿となり、開業医にとっては相互協力により医師の負担を軽減し、その結果として患者さん側にとって安心して訪問診療を依頼できるシステムを構築しようと考えた。

(目的)

- 1) 当連携は、グループとして在宅医療の受け皿の機能を果たす。また、グループ内の連携を通じ緊急時の対応を行う。
- 2) 各々の診療所、病院の特徴を生かした医療連携を組むことにより、地域の住民に可能な限り、継続的で効果的な在宅医療を提供し、その中からより良い医療を模索する。
- 3) 相互の医療相談制度を導入し、また種々の医療情報を共有する事によってお互いに医療の質の向上を目指す。
- 4) 当該診療所間及び病院間の親睦を計る。

(方法および結果)

当連携の医師は、連携医、協力医、病院医師に分類される。医師間で、在宅 24 時間連携を組む。このため各医師は常に連絡可能な通信手段を確保し、お互いそれを共有する。具体的には携帯電話、電子メール環境を整備する。連携医とは、主治医として治療にあたるものと、これを連携協力して補佐する副主治医とからなる。患者さんの居住地と医師の専門性を考慮して主治医を決め、さらに副主治医がバックアップとして控え、訪問診療の分担や万が一の際の緊急対応をおこなうシステムを作っている。連携医は、現在 17 名に及ぶ。

協力医とは、皮膚科、眼科、精神科、脳外科、麻酔科、形成・整形外科、婦人科など専門性の高い診療科の医師で、連携医からの医療相談を受け、必要に応じて往診を行うもの。現在 6 名に及ぶ。

病院医師とは、病院または大学に勤務する医師で、当連携の趣旨に賛同するもの。病診連携を実践し、専門的な立場よりの助言等を行う。現在 4 名。

当連携は、平成 15 年 3 月に発足した。発足して日が浅くようやく連携の実績をつみ出したところである。平成 15 年 9 月までの成果を、事例を挙げて報告する。

当連携では、2ヶ月に1回の会合をもち、情報交換をおこない親睦を深めている。また、メーリングリストを開設し、医療上の情報をはじめ、さまざまな分野での情報の交換をおこなっている。病院側に認知していただくため、「長崎在宅Dr. ネットの御案内」の冊子をつくり、説明、配布している。さらに、当連携が在宅医療の受け皿として機能していることを広く一般に認知してもらうため、手作りのホームページを開設した。連携内で開始した管理栄養士派遣システムなどの試みも紹介する。

(結果)

- 1) 診診連携、病診連携を実践することにより、相互の負担を軽減することができた。
- 2) 在宅医療を希望する患者や、在院日数を短縮したい病院側にも歓迎された。

(まとめ)

長崎在宅Dr. ネットは、創設よりまだ日が浅いが、着実な成果を挙げつつある。今後、在宅医療に熱意のある医師の参加を促し、市内全域を網羅するようなネットワークを構築していきたい。